宇ノ気中学校だより

# さわやか

《１２月号》
令和２年１２月１日
校長　山本　桂一
生徒指導部

## ２学期の自己評価は？

校　長　　山本　桂一

いよいよ師走となり、今年（２学期）も残すところあと１か月となりました。新型コロナの影響で、８月１９日から２学期がスタートし、今もなお、毎朝の検温やマスクの着用、手洗いや換気など、感染予防をしながらの生活が続いています。このような中、生徒たちは毎日の授業や部活動等に熱心に取り組んでおり、規模の縮小や制約のある中での開催となりましたが、運動会や学校祭などの各種行事を通して多くのことを学んでくれたのではないかと思います。授業や家庭学習に粘り強く取り組む生徒、人を思いやり友達と協力して物事に取り組む生徒、また、生徒会や学級の係活動、部活動等に自主的に取り組む生徒など、生徒によって頑張ったことや成長したことは異なりますが、一人一人がこの２学期を振り返り、「自分の成長」を確認してほしいと思います。

寒さが増し、今後はインフルエンザの感染予防にも留意しながら、生徒たちには「２学期のまとめと３学期への準備期間」として、１２月の一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。

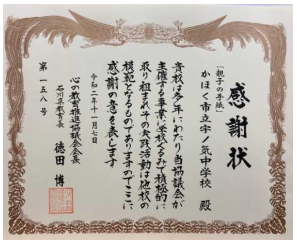
---

１１月７日（土）に、県地場産業振興センターで「心の教育推進大会」が開催され、真生会富山病院の心療内科部長：明橋 大二 先生が「見逃さないで！子どもの心のＳＯＳ」という演題で講演をされました。とても参考になるお話で、心に残った次の２つのことを紹介いたします。

◇子育てで一番大切なことは？
　子どもの心に「自己肯定感」を育てること
　① ほめる
　　１）できないことより、できているところに注目
　　２）できて当たり前でなく、できなくて当たり前
　　３）比較するなら、以前のその子と
　② 「ありがとう」は最高のほめ言葉

◇「甘えさせる」と「甘やかす」の違いは？
　○「甘えさせる」：子どもの情緒的な要求に応える。（抱っこ、話を聞く）
　　子どもができないことを手助けする。
　×「甘やかす」　：子どもの物理的な要求に言われるがまま応える。（お金・物）
　　子どもが自分でできることまで大人が手出しする。（過干渉）

本校では、日頃、「自己肯定感／自己有用感の育成」や「温かさの中に厳しさのある指導」に努めていますが、講演を聴いて、その大切さや必要性を再認識させられました。今後、学校や家庭において、これらのことを更に留意した指導を進めていきたいものです。


感謝状

[親子の手紙]
かほく市立宇ノ気中学校　殿

貴校は多年にわたり当協議会が主催する事業「親子の手紙」に取り組まれ、その教育効果は地域の模範となるものであります。
ここに感謝の意を表します

令和二十一月二日
心の教育推進協議会会長
石川県教育長　徳田　博

第一五八号

## 「感謝状」を受賞

今回の「心の教育推進大会」において、本校は「長年にわたり『親子の手紙』に学校ぐるみで取り組み、心の教育の推進に貢献してきた」ことが評価され、感謝状をいただきました。これまで協力してくださった保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、今後とも引き続き、各種の取組へご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

## ○１２月の生活目標
## 「充実した生活を送り、２学期をしめくくろう。」
## キーワード『冬に鍛えよう』

### 「気づきの服装」３つの取組

「防衛体力を高める」「健康に過ごす」「衛生的な生活を送る」「安全な生活を送る」の観点から、**①「薄着」②「防寒着の着用」③「ブーツ・スノトレでの登校」**を指導しています。

冬が近づくにつれ、朝ギリギリに登校する生徒が見られるようになってきました。寒くなり、行動が遅れがちになっているようです。時間を守ることは、社会に出てからも大切なことで、人から信頼されることにつながります。学校でも、授業の開始や給食準備など、決められた時間に余裕を持って行動できるように指導しています。ご家庭でも早めの準備、行動を心がけるように声かけをお願いします。

**【冬休み間近です】**

いよいよ冬休みが近づいてきました。休み中は、普段の生活ではできないことに積極的に挑戦し、有意義な冬休みを送ってほしいと思います。休み前に冬休みのきまりについて書かれたものを配付しますので、お子様と一緒にご覧ください。休み中は生徒が自分で判断し、行動しなければならない機会が多くなります。正しい判断で自分をコントロールできるよう、保護者の皆様には温かくも厳しくお子様を見守っていただきたいと思います。

## ○１２月の学習目標
## 「２学期の反省をして、よりよい学習習慣にしよう。」

２学期も残すところ、本日を含めて授業日があと１９日となりました。これまで何を身に付け、また何が身に付いていないのでしょうか。それらを教科毎に確認しておくと、これまでの学びがより確かなものになります。２学期末というこの「節目」に、一度自分を振り返り、次のステップに進むための準備をしましょう。

### 学年別に考える中学生の冬休みの勉強法

１年生は、この冬休みでしっかり苦手教科を克服しておきたいところです。数学であれば、正負の数の計算や方程式を移項を使って素早く計算できる。また、比例や反比例の式・表・グラフを関連づけて考えることができることなどです。これらの理解が不十分だと、２年生になってかなり苦労します。

２年生は、なんとなく感じていた英語や数学の苦手意識がでてくる時期です。受験生となる３年生に向けて、最も優先すべき教科の実力アップを図ってはいかがでしょうか。既に学習した内容で、理解が不十分なところは早いうちに解決しておくことが大切です。

最後に受験生である３年生は、お正月でも気を抜けません。国語・社会・数学・理科・英語の５教科については、毎日問題に触れて、感覚を鈍らせないようにしたいところです。本番を想定して、午前中に３教科・午後に２教科、時間をきっちり計って過去問や応用問題にチャレンジするなど、ある程度の緊張感の中で取り組むことで、モチベーションも高まり、よい刺激になると思います。